

学校だより

平成29年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



全国高専ロボットコンテスト 東海北陸地区大会



商船学科卒業式



SMA鳥羽丸トレーニング
留学生歓迎パーティー

- 校長式辞
- 就職・進学
- 全国高専ロボットコンテスト
- 学生の活躍

- 国際交流
- 練習船鳥羽丸 PR航海
- 実習・研修
- 学校通信

校長式辞

平成二十九年商船学科卒業式

専攻科（海事システム専攻）修了式

校長 林 祐司

本日ここに、多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご出席のもと、平成二十九年、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム専攻修了証書授与式」をとり行い、わが国の産業や科学技術を担っていく、新鮮な人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びであります。

本日、商船学科を卒業された航海コース二十一名、機関コース十六名の皆さんは、五年六月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム専攻を修了された三名の皆さんは、商船学科を卒業後、この二年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学改革支援・学位授与機構の審査にも合格し、学士の称号が授与されます。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは、本当の意味で、これから海図のない人生の遠洋航海に出られるわけですが、UW旗のほかに、大切なこと三つについて紹介いたします。

大切なこと一・命

命を大切に、しっかり生きるためには、観察力と注意力を十分に働かせて正しい情報収集と的確な判断が必要です。そして周囲の人々に対する包容力が肝要です。情報過多や誤った情報に惑わされて烏合の衆にならず、偏った情報に軽挙妄動せず、自身の考えや信念に従って、「命を守る」を第一として生き抜いてください。今まで受身であったやさしい強さや、強いやさしさを毎年少しずつ能動的に身につけていってください。

大切なこと二・友達

論語の一説に「朋有り、遠方より来る。亦た楽しからずや。」

ここで言う「朋」とは、一緒に学んだ者という意味です。今の私が、その端的な例で、本日遠方より大学時代からの朋が来ています。本当にうれしいことです。皆さんは、今後、異なった環境で生きていくわけですが、たまには集まって、在学した五年半を懐かしんだり、将来の夢を朋と語り合ったりしてください。

大切なこと三・仕事

一旦決めた仕事は、簡単に諦めてはいけません。仕事の状況や人間関係は、日々変化しますので、二〜三年の短期間の判断だけで簡単に諦めないことが大切です。短くも八年四月以上は続けてください。そこまで勤めれば、将来使える何かを手に入れているはずで、ここで言う八年四月に深い意味はありません。単に私の船乗りの期間をさしているだけです。

以上、大切なこと三つを紹介しました。

初めて出会う皆さんに、校長という立場ではなく人生の先輩としての経験と考えを話しました。残念ながら、生きていく上で、大小様々な失敗が発生します。それらの失敗に何を学ぶか、次にどう生かすかということが一番大切です。

大洋を乗り越えた皆さんは、少々の失敗に挫折するような人ではないと思います。また、一人で切開く人生は、たった今、始まったばかりです。恐れずに弛まずに、希望という輝く星を目指して航海を続けてください。人生の御安航を切にお祈りして、式辞といたします。



商船学科航海コースの就職・進学状況について



商船学科航海コース主任
片岡 高志

商船学科航海コースの平成29年9月卒業生は21名です。このうち就職が17名、進学が3名、他1名が留学（自主就職）となりました。海運会社からの求人は、昨年と比較して外航内航ともほぼ同じです。内訳は以下のとおりです。

外航海運では、川崎汽船に2名、旭タンカーに2名が採用されました。近海・内航海運では、井本商運、エチレン輸送及びオフショアエンジニアリングに各2名、フェリーさんふらわあ、オーシャントランス、英雄海運、福神汽船、田渕海運、鹿児島船舶、鶴見サンマリントーカーに各1名が採用されました。進学は、推薦による大学編入学で東京海洋大学海洋工学部に2名、本校海事システム専攻科に1名が入学しました。

また、専攻科海事システム学修了生は3名（何れも航海コース出身）で、3名とも海上就職となりました。内訳は、外航のNSユニテッド海運、リベラ及び独立行政法人海技教育機構（旧航海訓練所）です。

今年度も昨年に続いて海上就職率が100%となりました。本科卒業生、専攻科修了生とも海技士として日本海運を支える仕事に就いております。海技士の養成施設としての本校の使命を考えれば、この傾向はとても望ましいことといえます。在校生のみなさんも先輩に続くよう、より一層勉学に励んでください。入学時に抱いた夢を忘れずに頑張ってくださいと思います。

商船学科機関コースの就職・進学状況について



商船学科機関コース主任
伊藤 友仁

商船学科機関コースの平成29年9月の卒業生は16名です。そのうち、海上就職が12名、陸上就職が4名でした。海上就職は、日本郵船1名、川崎汽船1名、飯野海運1名、旭タンカー1名、太平洋フェリー1名、フェリーさんふらわあ1名、田淵海運1名、福寿船舶1名、国華産業2名、井本商運1名、昭陽汽船1名です。また、陸上就職は、ジャパンマリンユニテッド1名、帝国機械1名、東名エンジニアリング1名、家業1名でした。海上就職者のうち何名かが海技士国家試験の2級または1級筆記に合格しており、その合格者ほど希望の企業に採用される傾向が顕著でした。

商船学科は外航船員を養成するための船舶職員養成施設で、卒業すると3級海技士筆記試験免除となります（卒業直後に3級海技士免状を取得できます）。海上就職を希望する学生は5年次、春の就活開始時期までに2級以上の海技士筆記試験に合格すると希望を叶える上で大変有利となります。また、低学年の皆さんに伝えたいことは、英数国…等の、基礎学力をしっかり身に付けておくこと、採用試験（面接試験、学力試験、SPI、適正検査、TOEIC、作文…等々があります）で必ず役に立つということです。課外活動などで心身を鍛錬し、コミュニケーション力も身に付ける必要もあります。本校で学生一人当たりの企業求人数が一番多いのは機関コースですが、実力がなければ希望する進路には進めません。学生にとって大事なことは、低学年時から十分将来に備え、社会人に要求されるバランスが取れた総合力を身につけることです。

電子機械工学科の就職について



電子機械工学科長
古森 郁尊

日常を支えることに誇りを持つ人材の育成を念頭に、機械系・電気電子系を中心として計測制御・情報に関する分野を学ぶ本学科には、電機・電力、自動車、交通機械、通信・ビル建設・管理・空調・昇降機、食品・薬品・プラント制御など広範囲の企業から求人が来ます。求人倍率は約20倍以上でした。今年度は6月1日が過ぎて、就職先の目途が立っていた学生は6割程度、10月には就職を希望する全ての学生が内定を手にしておりました。次に、県内へ残った学生の割合は約30%でした。数年前は90%前後の割合で県外へ就職していましたが、最近、地元へ残る学生が増加する傾向が出てきました。尚、県外へ就職した学生の約70%が中部経済圏でした。

圧倒的に学生に有利な状況で就職活動ですが、採用試験では、基礎学力や伝達力が試されます。自分の意見や考えを伝えられない場合は不合格となります。今年度、第一希望の企業へ就職できた学生の割合は85%でした。

進学者は、専攻科へ3名、東京工業大学と岐阜大学へそれぞれ1名ずつ、豊橋・長岡技術科学大学へ3名の合計8名でした。

これから進路を決めていく学生諸君、選択肢は想像以上にたくさんあります。学校での活動の中で失敗したこと、それを乗り越えた経験を面接で熱く語れるように、学生生活を送ってください。

制御情報工学科の進路について



制御情報工学科長

出江 幸重

平成29年度の制御情報工学科の5年生は40名です。そのうち、就職希望が35名、進学希望が5名で、全員進路は決定しております。例年は就職が8割程度、進学が2割程度のイメージですが、本年度は9割近くの学生が就職希望でした。

進学は豊橋技術科学大学が1名、本校専攻科が4名です。

就職は売り手市場であり、ほとんどの学生が第一希望の企業から内々定をいただいております。その分野は、製造、情報通信、インフラ等を主として多岐に渡ります。職種も製品やソフトウェア開発、生産技術、保守・メンテナンス等様々です。

就職活動においては、まず自分を知ることが大切です。自分は何が得意で何が苦手なのか、どのような性格でどんな仕事に向いているのか、それが分かってくると希望する会社や職種が決まってきます。次の段階は自分の体験や経験に基づいて、自分がどのような人間か相手に伝えることができるかです、そのときには、人間性やコミュニケーション能力が問われます。

就職活動は、まだまだ先だと思っても、気づくとすぐにやってきます。4年生以下のみならず、も時には将来について考え、そのための努力を怠らぬよう日々過ごしてください。

専攻科の就職状況



専攻科長

宮崎 孝

専攻科の就職状況ですが、就職活動の時期による混乱もなく引き続き好調で希望通りの企業に就職できた学生が多い年となりました。生産システム工学専攻では半数以上の学生が5月中までに第一希望の企業から内々定をもらっています。通年採用を行っている企業を受け、何と1月中旬に内定となった学生もいました。最終的には、7月中には専攻の全ての学生が内々定となっています。地域や業種の偏りは特にありませんでしたが、自由応募で採用試験を受け合格した学生が多かった印象があります。また、最終的には昨年度の修了生と同じ企業へ就職する場合もなく、初めて受験する企業も多くありました。売り手市場であることもあり、学生自身が希望の企業をよく考えてをチャレンジした(できた)年だったと言えます。この状況を継続できるように支援していきたいと思えます。

一方残念ながら、昨年度に引き続き今年度の進学者も0人でした。現時点では1年生に、進学希望者もいるようですので、進学についても勧めたいと思います。

就職準備のための一歩としてインターンシップがあります。専攻科からは3社へ4名が参加しました。できるだけ多くの学生が参加できるように、受け入れ企業を増やしていきたいと思えます。

平成29年3月及び平成29年9月卒業生進路先一覧(順不同) 平成29年9月30日現在

商船学科

- 就職先 川崎汽船株式会社、ジャパンマリンユナイテッド株式会社、日本郵船株式会社、鹿児島船舶株式会社、井本商運株式会社、エチレン輸送株式会社、オフショアエンジニアリング株式会社、株式会社フェリーさんぽらわ、旭タンカー株式会社、英雄海運株式会社、福神汽船株式会社、鶴見サンマリントンカー株式会社、オーシャントランス株式会社、田洲海運株式会社、有限会社姉子松鉄工所、福寿船舶株式会社、飯野海運株式会社、東明エンジニアリング株式会社、太平洋フェリー株式会社、昭陽汽船株式会社、国華産業株式会社、株式会社帝國機械製作所
- 進学先 東京海洋大学、鳥羽商船高専専攻科(海事)

電子機械工学科

- 就職先 森永乳業株式会社、コスモ石油株式会社、東海旅客鉄道株式会社(JR東海)、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、廣瀬精工株式会社、三重金属工業株式会社、万里設備株式会社、東ソー株式会社、ダイキン工業株式会社、総合警備保障会社、田中貴金属グループ、住友電設株式会社、パソナルR&D株式会社、株式会社NITフィールドテクノ、エムイーシーテクノ株式会社、株式会社ザイマックスアルファ、中部電力株式会社、ANAベースメンテナンステクニクス株式会社、村田機械株式会社、東京ガス株式会社、松田工業株式会社、松田精工株式会社、セントラル硝子株式会社、シンフォニアエンジニアリング株式会社、株式会社丹羽鉄工所、パワーサプライテクノロジー株式会社、三機工業株式会社、小木曽工業株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、シンフォニアテクノロジー株式会社
- 進学先 東京工業大学、岐阜大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、鳥羽商船高専専攻科(生産)

制御情報工学科

- 就職先 株式会社NTTネオミート、日本たばこ産業株式会社、花王株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、日東電工株式会社、株式会社ドリーム・アーツ、株式会社NTTファシリティーズ関西、美和ロック株式会社、中部電力株式会社、日本オース・エレベーター株式会社、ニプロファーマ株式会社、ダイキンエアテック株式会社、日立INSソフトウェア株式会社、出光興産株式会社、株式会社NITフィールドテクノ、株式会社大気社、ソーニャネットワークアプリケーションズ株式会社、旭化成株式会社、株式会社LIXIL、株式会社ニコソ、株式会社FLEXER、富士ゼロックス三重株式会社、株式会社協和工シオ、株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー、キクワフインタープライズ株式会社、ダイキン工業株式会社、キャノンシステムアンドサポート株式会社、三重金属工業株式会社、株式会社中央エンジニアリング、オムロンフィールドエンジニアリング株式会社、パナソニック株式会社、富士電機株式会社、株式会社メンバーズ、株式会社NTTファシリティーズ東海、フジテック株式会社
- 進学先 豊橋技術科学大学、鳥羽商船高専専攻科(生産)

平成29年3月及び平成29年9月専攻科修了生進路先一覧(順不同) 平成29年9月30日現在

海事システム学専攻

- 就職先 リバラ株式会社、NSユナイテッド海運株式会社、独立行政法人海技教育機構

生産システム工学専攻

- 就職先 株式会社エヌエフ回路設計ブロック、株式会社メンバーズ、パワーサプライテクノロジー株式会社、森永乳業株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー、テルモ株式会社、ヤフー株式会社

高専ロボコン2017

ロボットコンテスト 重曹校として

競技委員長・電子機械工学科

古森 郁尊

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2017東海北陸地区大会競技委員長として、今年のロボットを振り返ってみたいと思います。

会場を三重交通Gスポーツの杜伊勢(県営体育館)とし、10月15日に開催致しました。東海北陸地区大会は、参加チーム数が全国最多となる20チームとなります。1チーム10名程度で構成されます。開催中は選手200名、各校からの応援団500名、一般観戦者700名、以外に本校職員、サポート学生、NHKスタッフの1500名以上の人たちが館内にいることとなります。主管校として、館内の人たちの安全確保に最も気を使いました。

今年のテーマは「大江戸ロボット忍法帳」であり、高専ロボコン始まって以来の飛び道具を使つての対戦型の競技でした。人間より大きく、力は遙かに強いロボットが衝撃音とともに衝突を繰り返しながら、お互いの風船を割

りあう競技となりました。迫力のある競技内容ではありましたが、運営する側としては、事故と隣り合わせの競技であり冷や冷やしなからの運営でした。

注目されることはありませんが、ピットと呼ばれるエリアでは、100人以上の選手たちが必至にロボットのメンテナンスを行っています。スポットライトがあたる競技フィールドにはない緊張感が漂っています。この雰囲気を感じることでできる学生は高専学生全体の数ですが、一人でも多くの学生に感じてもらいたいと思います。

ピットエリアの奥は、次の競技に備えて競技用風船を準備するサポート学生が走り回っている場所でもありました。競技に使った風船は1500個以上となりました。サポート学生には感謝の気持ちでいっぱいになります。

全国大会出場を決めた、鳥羽と鈴鹿から選ばれ三重県から2チームが全国大会出場を勝ち取りました。全国大会でも悔いの無い戦いをしてくれたいと思います。

最後に、競技を支えて頂いた本校職員の皆様に感謝致します。

ロボットコンテストを通じて感謝

電子機械工学科 3年

山本 汰



私は1年生からロボコンで活動しています。私が1年の時、地区大会に選手として出場しましたが、初戦敗退となつてしまい、すごく悔しかったのを覚えています。その試合が終わったあとに、先輩が私たちに「これからはもっと上を目指せると思うので頑張ってください。」と言ひ渡され、もつと頑張ろうという思いとともに強い責任をもりました。翌年、全国出場することができました。

そして、今年も3年生となり、私たちが上級生として春から活動してきました。今まで先輩方に教えて頂いた技術などを活かし、チームで助け合い、努力し、ロボットを作りました。先輩方の思いや、チームのみんなの思いを背負い、チームリーダーとして地区大会に挑みました。結果はベスト4に加えてデザイン賞を受賞し、2年連続の全国大会出場となりました。

全国大会では相手に圧勝されましたが、新たな課題や目標を得ることができました。また、それを先輩方のよう到来年、再来年の後輩たちに伝えていきたいです。私には来年もロボコンに挑むチャンスあるので、次こそは全国大会での1勝と、賞をとりたいたいです。そのためにも、これからも努力し、がんばります。



学生の活躍

高専プロコンで受賞！

制御情報工学科3年

小山 航輝

私たちは、スポーツの得点記録アプリ「テレスコア」を開発し、課題部門にて特別賞を受賞しました。

「テレスコア」は、スポーツで使う得点板を音声認識やリモコンを用いた遠隔操作でポイントを入力します。これにより、部員不足の部活でも得点記録係を用意する必要がなく、実際に練習に参加している部員が持ち場を離れずにその場から得点記録ができます。



また、本アプリには試合分析機能もついており、試合が終了したときの両チームの得点差から、個人の部活内における相対的な実力を示し、部員のモチベーション向上につなげます。試合を記録する中で分析していくので、面倒な手間を必要としません。

「テレスコア」は、システムとしての作り込み・完成度の高さが評価されました。私たちは実際にアプリを使用しながら、試合分析のために卓球300試合・バレー50試合以上のデータを集計してきました。

卓球のデータ集計は私たち開発者5人が、バレーのデータ集計は本校バレー部の皆さんに協力してもらいながら行いました。日常的にアプリを使うことで、不具合や改善点をすぐに発見することができました。また、自分たちの使いやすいと感じる見た目にしていくことで、洗練されたUIを造り上げることができました。

本校から3チーム出場し、他のチームは最優秀賞や優秀賞を受賞しているのに、悔しい思いもあります。でも、特別賞という形で認めてもらえたことは大変嬉しく思います。

たくさんの方々の協力・応援によって特別賞を受賞することができました。本当にありがとうございます。



HACK U 2017 OSAKA 受賞！

電子機械工学科1年

田中 潤一

私たちはHackU2017OSAKAに参加し、優秀賞を頂きました。今回のテーマが「UPDATE夏休み」ということで私たちは「Watermelon Sound」を開発しました。これはスイカをテーマに設定し、そして「Water Melon Sound」を開発しました。これはスイカを叩き、その音でスイカが成熟しているかどうかの判定を行うことができるものです。今回開発したシステムがコンテストのテーマにとても合っていたのと、スイカの音で成熟度合いを予測する昔ながらの知恵と機械学習等のIT分野との融合が高評価されました。

今回のコンテストに参加したことにより技術力の向上、さらに他の学生と作品を通して交流することにより新たな知識や交友関係が得られました。システムの開発はとても苦勞しましたが今回参加したことは私にとってとてもいい経験となりました。



学生スマートフォンアプリ コンテストで受賞！

制御情報工学科2年

中村 拓誠

私たちは痛風持ちの方に向けて「痛風度Check」というiOSアプリを作り、第5回スマートフォンアプリコンテストでヤング賞を受賞しました。

このアプリは痛風になりやすいプリン体を多く含んだ食べ物をグラフを用いてわかりやすくし、痛風改善や予防をするために使います。

このアプリの良さは、一日に摂取したプリン体などの量をグラフを使うことで視覚的にわかりやすくした点です。プリン体などの量を記録するため、一日にどれくらいの量を摂取したかわかるようになっていきます。さらに、一日に摂取しても良いプリン体などの量を超えると、グラフの色を変化させ、ダイアログを表示させることができます。

コンテスト会場には中年男性が多く、痛風という非常に身近な健康問題への対策が高評価されました。他の人に評価されたことでさらにモチベーションが上がりました。



ソーラー&人力ボート全日本 選手権大会2017に参加して

商船学科航海コース5年

麻野 航

2017年8月27日から28日に愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催された、ソーラー&人力ボート全日本選手権の人力ボート部門に参加しました。

この大会は人力またはソーラーパワーを用いて推進する手作りボートのレースで、毎年夏に1回日本ソーラー&人力ボート協会の主催で大会が開催されています。大会の種目は、200mスピードレース・1000m周回スラロームレース・1時間耐久レースの3種目があり、ボートのスピードだけでなく、ボート自体の耐久性・操縦性などが求められます。このボートレースに本校では2007年から商船学科の鎌田先生とその卒業研究学生達を中心としたチームで12年連続の出場となり新しく設計・製作したプロペラを用いた「カマテック17号」で挑戦しました。



大会は晴天に恵まれ、初日の1000m周回スラロームレースは人力排水量部門（水中翼でない）にて「準優勝」で入賞することができました。新しいプロペラの強度は十分でしたが、ピッチが少し大いと感じたため、更なる調整が必要だと思えます。また、実際に操船して舵ききが良くなかったため、舵も改良が必要だと思いました。

今年の学生総優勝は「釜山大学」でしたが、来年は今年の経験をもとに良い結果を出して欲しいです。ボートレースは色々トラブルもあり大変でしたが、勉強する事がたくさんありとても良い経験でした。

少林寺拳法三重県大会で 3名が最優秀賞！

商船学科2年

清水 大椰

10月29日に松阪市のさんぎんアリーナで開催された「みえスポーツフェスティバル2017少林寺拳法三重県大会」に参加してきました。今年は少林寺拳法創始70周年の節目であり、三重県少林寺拳法連盟40周年の年でもあったため、深い意義を持つ大会となりました。



本校からは男子組演武2組、女子組演武1組、男子単独演武2名の計8名が出場しました。試験期間と重なり、なかなか練習時間が作れない中、お互いにアドバイスし合い、精一杯練習に励みました。

大会当日は、台風22号の影響による悪天候の中で開催されたにもかかわらず、多くの拳士が集まり、個々に練習の成果を発揮していました。私は、単独規定演武一般男子初二段の部に出場し、程よい緊張感の中、練習の成果を出すことができました。その結果、私と女子組演武の2名が最優秀賞を受賞することができました。

私たちはこの結果に満足することなく、さらなる上達のため、日々精進してまいります。



女子バレー部 東海地区高専大会で優勝

制御情報工学科5年

小山 紗希

最後の1点を決めたのは商船学科2年生のさえでした。この瞬間みんながさえに抱きつき、泣いて喜びました。鳥羽商船女子バレー部がこの東海地区高専体育大会で優勝するのは初めてのことです。昨年は惜しくも準優勝と悔しい思いをした分、この瞬間は今でも鮮明に覚えています。

女子バレー部は例年部員が少ない上、実験や乗船実習などによりみんなが揃って練習ができる時間も多くはありません。それでも十分と言える環境で練習ができたのは顧問の教官、卒業していった先輩方が練習や試合に駆けつけてくれたからです。部員全員が一生懸命になつて試合に挑んだことはもちろん、多くの支えがあったからこそ優勝カップを手に入れることができたと思っています。



今年も東海北陸決定戦で富山高専に負けてしまい、全国大会には行けませんでしたが、私はここで引退となりましたが、後輩たちが来年の全国大会で活躍する姿を見せてくれると楽しみにしています。



今年も東海北陸決定戦で富山高専に負けてしまい、全国大会には行けませんでしたが、私はここで引退となりましたが、後輩たちが来年の全国大会で活躍する姿を見せてくれると楽しみにしています。

空手部 東海地区高専大会で 団体組手優勝

制御情報工学科4年

兼子 律樹

私たち空手部は、平成29年6月24日に行われた東海地区高専大会の団体組手で優勝することができました。前回の高専大会では1点差で優勝を逃しているのですが、今回このような結果を残すことができ、嬉しく感じます。

現在、空手部は男子11名、女子2名の合計13名で活動しています。空手にはいくつかの流派があり、流派によつて動き方などが全く違います。鳥羽商船空手部での流派の経験者は4名しかいません。他学校と比べて、経験者が少ないというのが現状です。そのため、お互いに教えあつたり、指導者の先生に教えて頂いたりしながら、練習を励んできました。今回の優勝は、その今までの練習の成果だと思います。しかし、まだ課題もいくつか残っているので、それらを克服できるように次回に向けて練習に励む必要があります。

来年は個人戦でも結果が残るよう互いに切磋琢磨し、より良い結果が残せるよう頑張っていきたいです。



国際交流



「SMA鳥羽丸トレーニング」に参加して

商船学科機関コース3年

東 美里

私は9月13日から16日まで鳥羽丸トレーニングに参加しました。全部の日程に参加は出来ませんでした。とても有意義な時間を過ごせました。このプログラムでは、シンガポールからSMAの学生が鳥羽丸に来て鳥羽丸で実習などを行なうので、そのサポートメンバーとして参加しました。普段私が実習でしている事をするのですが、それを英語で説明するのは難しかったです。船内では、日本についてや鳥羽商船の紹介などのプレゼンをしました。すごく緊張しましたが、真剣に聞いてくれたので嬉しかったです。夜にはトランプやゲームをしました。シンガポールでのルールを教えてもらったり、日本のゲームのやり方を教えたりしました。フィールドワークでは各班に分かれて色々なところに行きました。私のグループは伊勢神宮やおかげ横丁、温泉に行きました。赤福氷を食べた時にシンガポールのかき氷と違うなど教

えてもらいました。私は英語が拙かったのですが、周りの鳥羽商船の学生が助けてくれたり、SMAの人たちが優しく教えてくれました。日本とシンガポールの違いについても知れたので良かったです。シンガポールのことについてとても興味が湧きました。日程は20日まであったのですが、最後まで参加できず悲しかったです。もっとSMAの学生の人たちと一緒にいたいと思いました。鳥羽丸トレーニングを通して、英語でのコミュニケーションの難しさや大切さが分かりました。この経験はこれから将来にとっても役立つと思います。参加できて良かったです。



「短期ロサンゼルス海洋研修」に参加して

商船学科航海コース3年

岡 宏樹

皆さん、「トビタテ！留学JAPAN」という留学制度を知っていますか。「トビタテ！留学JAPAN」とは、政府と民間企業が協働して高校生・大学生の海外留学を支援する、留学促進のための国家プロジェクトの事で、書類審査・面接審査を経て日本代表として採用されると、手厚い奨学金や事前事後研修など留学に対する多様なサポートを受けることが出来ます。また、幅広い留学が対象で期間・渡航先を自由に設定することができ、留学を通じて世界で活躍できる人材の育成を目指します。



今夏、私はこの制度を利用して約一か月間アメリカ・ロサンゼルスに留学をしました。

目的は、現在日本の海運業界で問題視されている日本人船員の減少について原因と打開策のヒントを探るといふもので、実際に現地で貨物の輸出入を行っている方や船員養成所でマネージャーをしている方、船会社を経営し

ている方などに直接お会いしてお話を聞きました。また、博物館などを巡り、海外の船舶事情について更に理解を深めました。

日本人船員の減少の背景には、世界規模で起きている海運業界の大不況の影響があり、そもそも必要とされる船員が減っているのではないかと考えました。また、日系海運業界の世界との競争力不足は明確なもので、世界に遅れを取っている事は確かです。しかし、日系企業独自の持っている特徴を生かしたビジネス戦略を行い続けられれば、海外企業と互角に勝負することが出来ると思います。

今回の留学で、グローバルな視野を身に付けることが出来ました。また、海運業界だけでなく、いろいろな考え方や生き方、文化についても考え方が変わりました。それは、様々な国・宗教の人が暮らすアメリカでの留学があつたからです。

「トビタテ！留学JAPAN」での留学に関わらず、海外留学は将来の可能性を必ず広げてくれるはずです。できるだけ若いうちに海外を見て感じて自分の可能性に気付くきっかけをつかむことが大切だと思いました。



「オタゴポリテクニク就業体験プログラム」に参加して

商船学科 機関コース3年

中嶋 瑛莉奈

私は、『トビタテ！留学JAPAN』という官民協働海外留学支援制度を利用して、ニュージーランドのダニーデンにある、“Otago Polytechnic”という総合専門学校へ17日間の留学をさせて頂きました。そこでは、他高専の学生と共に英会話や理系工学の授業を受けました。学校の先生はニュージーランドの方がほとんどだったので、授業は全て英語で行われました。英会話の授業では、決められた題材に基づいてスピーチを行ったり、中国やシリア等のさまざまな国籍の学生とコミュニケーションを取る時間を設けられました。理系工学の授業では、シリンドー型のコンクリートや多様な形の橋の模型を作り、破壊して強度を測る性能実験や、CADを用いてデザインを行ったり、基盤に電子回路を組んだり等、様々なエンジニアリングの専門授業を受けることができました。同じ志を持つ他高専の仲間達と共に、日本とは違った環境でこのような経験をする事ができて本当に良かったです。

ホームステイでは、日本との文化の違いを直接感じる事ができ、実際に行ってみないと分からなかった事

を知ることができました。ホストファミリーは初日から最終日まで毎日私に親切に接してくれて、慣れない英語に苦戦していた私をいつでもサポートしてくれました。また、ホストファミリーやホストブラザー達とも仲良くなる事ができ、とても充実したホームステイ生活を送ることができました。この経験は私に、何かを成し遂げる大切さや広い心を持つ重要性を教えてくださいました。短い間でしたが、留学中は数えきれない程の楽しかった思い出と、それと同じくらいの悩みや迷いがありました。しかし、それら全ての経験が、これからの自分にとって何物にも変え難い財産になったと思います。



「MELキャンプ」に参加して

商船学科航海コース3年

服部 達人

9月4日から14日までの間、MELキャンプに参加してきました。到着した次の日から3日間、SP (Singapore Polytechnic) で、英語研修を受けました。ここでは、「l」と「r」や「b」と「v」など、日本人が苦手とする発音を一から丁寧に教えていただき、それを意識して話すことで、少しはきれいな英語を話せるようになったと思います。

私たちはSMA (Singapore Maritime Academy) と NYK Ship Management の見学もさせていただきました。SMAは、操船シミュレーターや模擬機関室などの実習設備が整っていました。

NYK Ship Management では、会社のオフィスで船舶や船員など海運業の話をしていただき、その後NYKの研修施設も見学しました。そこには船員に必要な操船や荷役のシミュレーターなどの研修設備があり、実際に研修中の方々もおられました。

そして私たちは4日間、SMAの学生とともに Super Star Gemini という全長230m、総トン数約5万トンの客船に乗船しました。

シンガポールを出航し、マレーシアのパナン島とランカウイ島に寄港しま

した。航行中はダンスレッスンや船内見学、パーティなどのイベントがたくさんありました。船内見学では船橋を見させていただいたのですが、航海士が座って操船されていて、鳥羽丸との違いに驚きました。

SMAの学生は、拙い英語で話す私にも親切に接してくれました。これを機にさらに英語を勉強して、自分が伝えたいことを完璧に表現できるようになろうと思いました。

MELキャンプで得た多くの経験を将来に活かせるようにしていきたいと思っています。



練習船鳥羽丸 P R 航海

鳥羽丸四日市港・名古屋港
PRに参加して

商船学科航海コース3年 遠藤 正文

私は8月5日、6日に行われた鳥羽丸の四日市港PR、11月10日から12日に行われた名古屋港PRに参加しました。これらは一般公開、体験航海を実施することで鳥羽丸と鳥羽商船を知ってもらうためのイベントです。今年度は名古屋港に日本丸と海王丸が6年ぶりに同時入港した珍しい年でした。実は私は、小学生、中学生の頃に名古屋港のこのイベントに参加し船に興味を持ちました。そのため、同じような経験を今の小学生、中学生にもしてもらいたいと思い、今回2つのPR活動に参加しました。四日市港では全科、名古屋港では商船学科の3年生以上の有志が参加し、PRを成功させるために協力しました。特に名古屋港PRは大成功でした。帆船を見に来た方が多く、鳥羽丸の一般公開も多くの方々に見学していただくことができました。体験航海は鳥羽丸



に乗って帆船のセイルドリルを見学してもらったものでしたが、強風により、セイルドリル自体は途中で中止になってしまいました。体験航海はその後も続け、乗船した方々に鳥羽丸と鳥羽商船を宣伝することができました。

また、実習では行かない名古屋港入港時に航海当直に入ること、良い経験を積むことができました。夜には上陸時間もあり、友人と楽しみました。

本年度は、この2つのPRを成功させることができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。来年は私たちが帆船に乗る立場になります。5年生になってもこのイベントに参加したいと思います。



練習船鳥羽丸のPR航海について

商船学科機関コース 鳥羽丸一等機関士

山野 武彦

『四日市港PR航海』

8月6日、四日市港にて練習船鳥羽丸の一般公開並びに体験乗船を行いました。午前中の一般公開では、これまで最多となる530名を超える訪船者があり、船内では学生たちが各配置に散らばり、それぞれ一所懸命船内設備を説明しておりました。また例年、四日市港祭りではカッター大会が開催されており今年も女子チーム、その名も「旭日昇天」が初参戦し大いに盛り上がっております。

ただ残念なことに、台風5号接近のため「鳥羽丸体験航海」終了後に予定を繰り上げ、鳥羽池の浦に帰港いたしました。



では100名を超える方が訪船され、学生たちの説明に耳を傾けておりました。午後の『日本丸』『海王丸』のセイルドリル見学航海では、強風のため出港が危ぶまれましたが、何とか出港しセイルドリルを海上から見学できました。

更に今回の名古屋港一般公開では全天球カメラで撮影した動画を用いた、機関室の疑似探検ツアーや鳥羽丸シアターによる大迫力の学生たちの実習風景が上映されており、皆さん興味深そうに見られておりました。

これからも本校並びに練習船鳥羽丸のPRに尽力していこうと思います。鳥羽丸の様々な活動については、『練習船鳥羽丸』のfacebookをご覧ください。

皆さん今後とも練習船鳥羽丸の応援よろしく願います。



<https://www.facebook.com/tobamaru.jp>

工場見学に参加して

制御情報工学科 4年 清水 康平

平成29年10月25日(水)〜10月27日(金)の3日間、愛知と東京に工場見学に行ってきました。1日目の三菱電機株式会社名古屋製作所の見学では、Factoryと呼ばれる最新の工場設備の見学を行いました。Factoryとは、生産量の計画と実績をリアルタイムで見える化し、生産の無駄を省くといった工場のことです。今後こういった工場が増えることで、日本全体としての生産の効率化が期待できるのではないかと感じました。2日目は、それぞれが行きたいところに行き、自由行動を楽しみました。都庁の夜景はおすすめです!!3日目の日本HP東京ファクトリー&ロジスティックパークの見学では、パソコンの組み立て工程の見学を行いました。日本HPのパソコンは、ひとつひとつ手作業で組み立てているなど、徹底的な品質管理の下で作られており、こういった配慮がお客様の信頼につながるのだろうと感じました。



今回の工場見学では実際の職場を見学

することによって、職場での独特の緊張感を味わうことができました。この3日間得たものを、今後の学校生活に活かしていきたいと思えます。

工場見学

インターンシップでの経験について

電子機械工学科 4年 北野 陽

私は、インターンシップで請負や派遣を主にしている株式会社マイスターエンジニアリングに行きました。最初はどんな実習をするのか不安でしたが、実際に仕事で使う制御方法や機械の組み立て、製図などについて学ぶ実習でした。社員の方に教えてもらったり、学校で学んだ製図の知識を生かすことで課題をクリアすることができました。

ただ、失敗したこともありました。時間通りに着くはずのバスが遅れたせいで遅刻してしまい、自分は悪くないはずなのに「バスが遅れることも計算しておかないといけないよ。」と怒られてしまいました。この経験で、学校では許されることが会社では通用しないことが分かり、社会の厳しさについて学ぶことができました。他にも学校で学んだことが生かせることを実感できたり、一部だけかもしれないかもしれませんが、仕事や雰囲気や理解できたので、とても良い経験になりました。



インターンシップ

フィールドワークに参加して

商船学科 2年 西田 唯夏

私たちは10月18日に2年生の校外学習として、1日フィールドワークを行いました。商船学科の見学の内容は四日市ポートビルと津の造船所の見学でした。

四日市ポートビルには展望台があり、そこでは四日市港についての歴史を学ぶことが出来ました。それと四日市港を一望できるテラスがありました。そこからみた景色の中で特に印象に残ったのは、四日市港に出入りする多くのタンカー船やコンテナ船の姿です。

津の造船所では最初に説明を受け、その後、バスで敷地内を見学しました。敷地はとても広く、私たちは様々な作業を見学することが出来ました。本校を卒業した先輩も何人かこの造船所に就職し、活躍なさっているそうです。

このフィールドワークを通して、私はあと数年後には就職して働くのだということをハッキリと自覚できました。自分の将来をより具体的にするため、勉強に励み、日々努力していきたいと思えます。



フィールドワーク

リーダーズトレーニングに参加して

制御情報工学科 4年 村山 由莉衣

私は9月2日と3日の2日間行われたリーダーズトレーニングに、学生会役員として参加しました。リーダーズトレーニングは、リーダーとなる学生の育成を目的とした行事です。毎年、学生会役員のために、各クラブの代表、寮生会の役員が参加します。また昨年度からは、鈴鹿高専の学生会役員も参加しています。

初日は「集団でのコミュニケーションスキルの取得」と「グループ活動とコンセンサスによる集団決定」を学ぶグループワークを行い、その後「安全講習」と「学生会の組織・規則・運営・予算に関する講習」を受講しました。

2日目は参加者の交流を深めることを目的に、全員で奈良の東大寺付近を散策しました。学生会は他の部活動とは違い遠征をすることもないため、新鮮な体験でした。

今回のリーダーズトレーニングでは、聴く・話すことの障害要因や集団決定の難しさを学び、リーダーとして必要な要素は何かを深く考えさせられました。今後はこの経験を学生会活動に活かしていきたいと思えます。



リーダーズトレーニング

漕艇大会

カッター部 伊藤 豊晟

2017年7月16・17日に第52回全国商船高専漕艇大会が本校で行われました。当日は風が強く吹いていたため、漕ぎにくい環境下でのレースとなりました。その中でも私たちはつらい練習で積み上げた技術と団結力を活かし、安定した速さで艇を走らせることが事が出来ました。その結果、A・Bチーム共に優勝という結果を残すことが出来ました。これは目標を達成できたとともに、今までの努力が結果に結びついた証明となり、とても嬉しかったです。指導していただいた教官方、諸先輩方に心から感謝しています。今大会で最高学年の先輩方は引退し、現在カッター部は新体制の総員22名で頑張っています。来年の漕艇大会は7月に大島商船で開催されます。来年入ってくる新入部員とともに次も優勝旗を持ち帰れるよう、一致団結して練習に励みます。今後とも応援よろしくお願いたします。最後になりましたが、遠方より応援に駆けつけていただいた保護者の皆様、休日にもかかわらず快くご臨席いただいた、校長先生はじめ役員の皆様、大会運営にあたり準備をしていただいた事務の皆様、ありがとうございました。



公開講座・出前授業実施



「IchigoJam でマイコンプログラミング」

本校では今年度も、小中学生を中心に学びの機会を提供すること・鳥羽商船の魅力を伝えることを目的として、公開講座「サイテクランド2017」「小学生のためのバレーボール教室」「入試対策講座」を実施しました。

今年度も様々な分野で実施し、伊勢・鳥羽・志摩地区を中心に約170名の小中学生の参加がありました。各講座の受講者は講師の説明を熱心に聞き、意欲的に取り組んでいました。特に、「IchigoJamでマイコンプログラミング」は11/3(金・文化の日)に開催された「U16プログラミングコンテスト三重大会」の事前講習会を兼ねており、受講者は各々講師や周りと相談しながら作品を製作し、作品発表の時間では積極的に自分のアイデアを披露していました。

出前授業では依頼があった伊勢・鳥羽市内の小中学校を訪問・来校いただきLEGO、IchigoJamを使った授業等、普段経験することができない授業を体験していただきました。

また、鈴鹿市内の中学校2校からの依頼で日本の貿易と商船・船員についての授業を行い、将来の進路として商船学科・船に関する仕事を知らせていただく良い機会となりました。

公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月9日(水)
手作り振動型発電機を作ってLEDを光らそう	8月22日(火)
電気を測ってオームの法則を確認しよう	8月22日(火)
3Dプリンタでオリジナルスマートフォンスタンドを作ってみよう	8月23日(水)
IchigoJamでマイコンプログラミング(U16プログラミングコンテスト三重大会事前講習会)	8月16日(水) ※鈴鹿高専で開催 8月25日(金) 8月26日(土)
おもしろ理科実験	8月29日(火)
小学生のためのバレーボール教室	9月30日(土) ※初心者 10月7日(土) ※経験者
入試対策講座	11月23日(木・祝) ※理・数・英

出前授業

講座名称	担当学科
LEGO情報	8月17日(木)
オリジナルうちわ作り	8月21日(月)
IchigoJam	10月5日(木)
LEGO初級	11月3日(金・祝)
ロボット教室	11月23日(木・祝)
LEGO初級	2月9日(金) ※予定

編集後記



今年の流行語大賞などが発表される季節になりました。先日「任期満了」という言葉にいたく感動しました。日本人が使ったなら別に驚くこともない場面でしたが、来日して何年も経っていない外国人の口から出た言葉でしたので、その勤勉ぶりに感心しました。

「任期満了」を英語でどうなのか考えてみましたが分かりませんでした。expiration of term of office と言うらしいです。自分の勉強不足を感じました。(伊藤(立)記)